

社会科

大塚 有将

杉山 綾

寺島 慶子

共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. はじめに

（1）研究背景

本校では、研究主題に「新たな社会を見据えた探究的な活動に関する考察」と定め、Society.5.0という新しい社会を見据え、新設教科「創造デザイン科」を中心に、実社会との繋がりのある授業実践を試みてきた。

内閣府によると Society5.0 とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会問題の解決を両立する、人間中心の社会（Society5.0）であり、「狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもの」とされている¹⁾。第6期科学技術・イノベーション基本計画では、国内外の情勢を踏まえて Society 5.0 の概念をさらに具体化し、目指すべき Society 5.0 の未来社会像を「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現している²⁾。そのような社会の実現に具体的に必要なものの1つとして、「新たな社会を支える人材の育成」を掲げており、自ら課題を発見し、解決方法を模索することで、探究的な活動を通じて身に付く資質・能力を磨き高めることにより、多様な幸せを追求し、課題に立ち向かう人材を育成することを重視している³⁾。

本校では、探究的な活動を通じて身に付く資質・能力の中でも、潜在的な問題を見出し、既存の考えにとらわれることなく、アイデアを広げ、新たな価値を生み出すことができる能力である「創造的問題解決能力」を身につけることを重視する。学校教育において、「創造的問題解決能力」を育成できる場の一つとして、「総合的な学習の時間」が位置付けられる。

「総合的な学習の時間」では、探究のプロセス（図1）を通じた「探究的な活動」において、「問題発見・解決能力」の育成が求められており、これは創造的問題解決能力を構成する要素の一つである。また、「総合的な学習の時間」は、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとも求められている⁴⁾。

本校では、令和3年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け、「総合的な学習の時間」の代用として創造的問題解決能力の育成に特化して教科化した「創造デザイン科」を新設した。本研究は、「創造デザイン科」で実施する「探究的な活動」へ、各教科等の資質・能力がどのように関わるのかを考察していく。

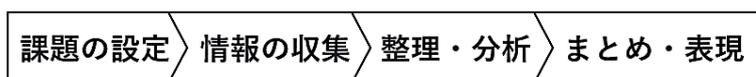


図1 「総合的な学習の時間」に実施が求められる探究プロセス

(2)「探究的な活動」と社会科の関わり

「総合的な学習の時間」では、「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける」ことが求められており⁴⁾、それらを通して身に付ける見方・考え方を「探究的な見方・考え方」と呼んでいる⁵⁾。社会科の資質・能力が探究のプロセスにおいて、どのように関連するのか考察することで、「探究的な活動」をより深めることにつながると考えられる。

社会科と「総合的な学習の時間」の連携について研究した事例は、数多く見られる。山根(2001)は、「総合的な学習の時間」が新設されるにあたり、「社会科は本来、総合的な学習の性格を色濃く持っており、今回の学習指導要領の改訂(平成10年版)によって、社会科が初期社会科のもっていた総合的性格を回復しようとしている」と述べ、戦後の日本で社会科教育の中核的な方法として位置付けられた問題解決学習と身に付けさせたい資質・能力の合致を示唆している⁶⁾。また、富田(2020)では、基礎的・基本的な学習事項を社会科で学習し、探究的な内容を「総合的な学習の時間」で取り扱う学際的な学習過程の構築も試みられ、郷土学習において親和性のある実践となったことも報告されている⁷⁾。

社会科と「総合的な学習の時間」の目標を比較すると、両者の共通点や類似点が見られる(表1)。國原(2018)は、『見方・考え方を働かせる』、『課題を追究し解決する』、『情報を収集・整理分析・まとめる、表現できる。』ことが共通として示され、『社会や生活の中から課題を立てる』ことや『課題解決に関わる知識と技能を習得する』ことも類似点であると考えられる」と述べている⁸⁾。

表1 総合的な学習の時間と社会科の目標(下線部は筆者による)

| | 目 標 |
|-----------|--|
| 総合的な学習の時間 | <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、<u>よりよく課題を解決</u>し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1)探究的な学習の過程において、<u>課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け</u>、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解するようにする。</p> <p>(2)実社会や実生活の中から<u>問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現</u>することができるようにする。</p> <p>(3)探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p> |
| 社会科 | <p>社会的な<u>見方・考え方を働かせ</u>、<u>課題を追究したり解決したりする活動</u>を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを旨とする。</p> <p>(1)我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から<u>情報を効果的に調べまとめている</u>。</p> <p>(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて<u>選択・判断</u>したり、<u>思考・判断したことを説明</u>したり、それらを元に議論したりする力を養う。</p> |

| | |
|--|--|
| | (3) 社会的事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 |
|--|--|

また、藤井（2012）は、「総合的な学習の時間」の目標である「自己の生き方」や「社会参画」は社会科の目標となり得ること、社会科の目標である「多面的・多角的考察」は「総合的な学習の時間」の目標になり得ると述べている9）。

以上の事から、社会科と「総合的な学習の時間」ともに重視されている、探究のプロセス（図1）を構成する「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の4つの要素において社会科における資質・能力と関連性が高いことが明らかになった。

(3)「探究的な活動」と社会科の関わりにおける課題

「総合的な学習の時間」と社会科の目標の相違点を（表2）のように分析した。

表2 総合的な学習の時間と社会科の目標による相違点

| 総合的な学習の時間 | 社会科 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な見方・考え方を働かせる ・ 自己の生き方を考えていくための資質・能力を身につける ・ 実社会や実生活の中から問いを見つける ・ 情報をまとめて表現する力を身につける ・ 積極的に社会に参画しようとする態度を養う | <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>社会的な見方・考え方を働かせる</u> ・ <u>公民としての資質・能力の基礎を身につける</u> ・ 社会に見られる課題の解決に向けて<u>選択・判断</u>する ・ 思考・判断したことを<u>説明</u>したり、それらを元に<u>議論</u>したりする力を身につける ・ <u>社会的事象について</u>、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う |

「総合的な学習の時間」は、探究的な視点を持ち、自己の生き方を考え、社会に参画しようとする態度を育てることを目指す一方で、社会科は社会的な視点を養い、社会の課題に対して選択・判断し、説明したり議論したりする中で、より良い社会の実現を目指す態度を重視していることが分かる。

探究学習においては、（図2）のような4つのフェーズを繰り返すことによって探究心を高めていく。社会科では4つのフェーズについて単元を通じて行うため、単元での学びや経験を次の単元に生かす必要がある。また、習得した知識や技能を、日常生活や実際の社会問題に応用できるような実践的な学びに繋げて行く必要がある。どのような場面で何を考えるか、そのためにどのような資料が必要か、説得力のある資料をどう作るかなど、社会的な事象への見方や情報を扱うスキルを育む機会を増やす工夫が求められる。

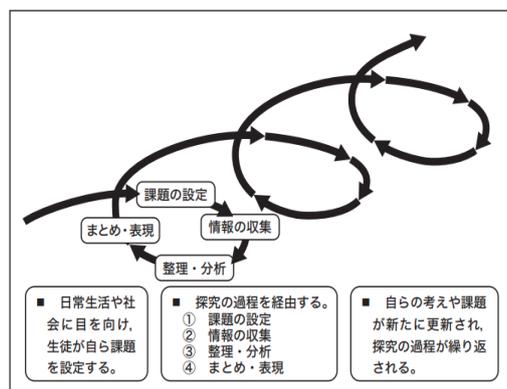


図2 探究における生徒の学習の姿

2. 探究的な活動(創造デザイン科)と教科等の関わりについて

(1) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

① 探究のプロセスに活かす資質・能力

社会科と「総合的な学習の時間」の目標を比較することにより、探究のプロセスを構成の中でも「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの要素において、社会科で獲得する資質や能力を応用させることができると考えた。探究的のプロセスに活用することができると考えられる社会科の資質能力について(表3)に示す。

表3 探究のプロセスと関連する社会科における資質・能力

| 探究のプロセス | 社会科における資質・能力 |
|---------|--|
| 課題の設定 | ・ 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 |
| 情報の収集 | ・ 調査や諸資料から効果的に収集する力 |
| 整理・分析 | ・ 社会における課題の解決に向けて選択・判断する力 ・ 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 |
| まとめ・表現 | ・ 調査や諸資料から情報をまとめる力 ・ 思考・判断したことを説明し, 議論する力 |

昨年度は、探究のプロセス関連する社会科の資質・能力を意識しながら「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に重点を置いた実践を行った。昨年度取り組んだ実践および成果について(表4)にまとめている。

表4 探究のプロセスに関わる実践事例および成果

| | 「情報の収集」に関わる実践 | 「情報の整理・分析」に関わる実践 | 「探究のまとめ・表現」に関わる実践 |
|------|--|---|---|
| 実践事例 | ・ 調べ学習を基にした教え合い(ジグソー学習) ・ レポートの作成 | ・ 生徒が資料を基にスライドを作成 | ・ レポートの作成 ・ 振り返りシートの活用 ・ ミニプロジェクトの実施 |
| 成果 | ・ 必要な情報の取捨選択を行った。 ・ 予め仮説を立ててから、情報収集にあたった。 | ・ 意見交換をすることで、情報を付け足したり削ったりしていた。 ・ 思考ツールを活用して情報を分析していた。 | ・ 単元の終末では思考の深まりが見られた。 ・ 内容によって、図やイラストを用いるなど、まとめ方を工夫していた。 |

各実践の成果により、「情報の収集」「情報の整理・分析」「探究のまとめ・表現」が相互に関わり、探究のサイクルが形成されていること分かる。例えば、情報の収集では、調べ学習や教え合いを通じて仮説の検証を行い、その後の整理・分析に繋がっている。また、情報の整理・分析では、意見交換やスライド作成を通じて集めた情報を吟味し、その結果をまとめる表現活動へと発展している。各段階が連携し、探究が循環的に行われることが分かる。

②デザイン思考のプロセスに生かされると考えられる資質・能力

本校は、令和3年度より文部科学省から研究開発学校の指定を受け、「総合的な学習の時間」を創造的問題解決能力の育成に特化して教科化した「創造デザイン科」を実施している。「創造デザイン科」は、「総合的な学習の時間」の中で実践が求められる探究プロセス（図1・2）とは異なり、「デザイン思考」のプロセス（図3）を基にカリキュラムが作成されている。「デザイン思考」は、Society5.0以降の社会において新たな価値を創造する資質・能力の中の「2 新たな価値の創造に関する思考力・判断力・表現力」（表5）に含まれ、潜在的なニーズに重点を置き、価値ある新しいものを生み出すという問題解決のための思考プロセスである。



図3 デザイン思考のプロセス

表5 新たな価値を創造する資質・能力とその定義

| 新たな価値を創造する資質・能力 | | 定義 |
|-----------------|-------------------------|---|
| 1 | 新たな価値の創造に関する基礎的な知識・技能 | 創造やイノベーションの定義、マインドマップ、ブレインストーミングなど、新しく価値あるものを生み出すことに関する基礎的な知識・技能。 |
| 2 | 新たな価値の創造に関する思考力・判断力・表現力 | デザイン思考に代表される、認識されていない内なる課題を見出し、最適な手立てを考えていく思考や、考えたアイデアを具体化するための論理的思考や批判的思考など。 |
| 3 | 新たな価値の創造に関する態度 | 「既存の考えに捉われることなく、斬新な発想を歓迎し、失敗してもいいからひとまずやってみる。」「自分には、周囲の世界を変える力がある。自分には、何かを生み出し、実行する力がある。」など、イノベーターが有している態度。 |

昨年度「創造デザイン科」のカリキュラムを「共感」「問題定義」、「創造」「プロトタイプ」、「テスト」の3段階に分け（表6）、各段階において生徒が考えた「必要だった力」と、その力に関する教科等について、テキストマイニングを用いた調査を行った。調査の結果は（表7）の通りである。また、（表7）に示した「必要だった力」の内、社会科のポイントが高かったものを表8にまとめた。

表6 評価のために分けた3つの段階

| | |
|--------------|---|
| 「共感」「問題定義」 | 生徒が人に共感し、潜在的なニーズを見出し、課題を設定する段階。 |
| 「創造」「プロトタイプ」 | 設定した課題の解決策を考え、アウトプットする段階。 |
| 「テスト」 | アウトプットしたことに対する評価を行うとともに、取り組んだプロジェクトを他者にプレゼンテーションすることを通して、活動自体に対する評価を行う段階。 |

表7 各段階において生徒が考える「必要だった力」(昨年度のアンケートより)

| 段階 | ① 「共感」「問題定義」 | ② 「創造」「プロトタイプ」 | ③ 「テスト」 |
|----------------------|--|--|---|
| 生徒が各段階において必要だったと考える力 | A 様々な視点から物事を見る力 B コミュニケーション能力 C 計画を立てて行動する力 D 人に気持ちを考える力 E 問題や課題を見つけ、解決策を考える力 F アイデアを生み出す力 G 自分の意見を相手に伝え、話し合うことで、考えを広げる力 | A グループで協力する力 B 計画を立て、積極的に構想する力 C 様々な視点から物事を見る力 D 問題を見つけ、具体的に解決すべき課題を設定する力 E コミュニケーションを通して情報を収集する力 F 相手の気持ちを考えつつ話し合い、班の意見をまとめる力 G 自分たちが実現したいアイデアを考える力 | A 計画を振り返り、問題や課題を見つける力 B 自分たちが行った活動を分かりやすく相手に伝える力 C 物事を客観的に見て、分かりやすいスライドを作る力 D データや活動の結果から必要な情報を整理し、要点をまとめる力 E 活動の結果から結論を出すために、コミュニケーションをとる力 F 班のメンバーと話し合い、改善点を考える力 |

表8 生徒が考える「必要だった力」とその力に関係する教科と「社会科」との関係

| デザイン思考のプロセスの段階 | 「社会科」のポイントが他教科と比較して高い項目 |
|----------------|--|
| ① 「共感」「問題定義」 | A 様々な視点から物事を見る力 E 問題や課題を見つけ、解決策を考える力 |
| ② 「創造」「プロトタイプ」 | B 計画を立て、積極的に構想する力 C 様々な視点から物事を見る力 D 問題を見つけ、具体的に解決すべき課題を設定する力 |
| ③ 「テスト」 | A 計画を振り返り、問題や課題を見つける力 |

生徒への調査から、デザイン思考のプロセスの中で社会科と関わるものとして、どの段階でも共通して、「様々な視点から物事を見る力」や「問題や課題を見つけ、解決策を考える力」が必要だったと考えていることが分かる。実際に創造デザイン科で行われた生徒のプロジェクトでは、①「共感」「問題定義」の段階で、自分たちの目線だけで課題を捉えようとして本質が見えなかった例、②「創造」「プロトタイプ」の段階で、1つの解決策だけを考えていたため、上手くいかずプロジェクトが止まってしまった例なども見られた。③テストの場面では、「自分たちにとって」「相手にとって」の成果を振り返る班も見られた。

デザイン思考のプロセスにおいて「多面・多角的」に物ごとを見たり、考えたりする力が必要であり、社会科が担う役割が大きいことが分かった。

また、昨年度社会科で行った実践からも、本質に迫る課題解決のために、社会科の見方・考え方を働かせた多面的・多角的に考察する力の育成が課題となった。

(2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

今年度は、(1)で述べた探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力として①の探究のプロセスに活かす資質・能力の育成を前提としながら、②の創造デザイン科に生かされると考えられる資質・能力として、社会科の見方・考え方を働かせた「多面的・多角的に考察する力」の育成に重点を置いた実践を行う。「多面的な考察」を対象における異なる側面に注目して考えることとし、「多角的な考察」を視点や視野を変えて考えることとする。このような様々な立場や視点を行き来することで、新たな考えに気づいたり、考えを深めたりできることを期待する。

第2学年

第2学年では、社会的事象に関わる必要な情報を収集、整理・分析する中で、基礎的知識を身につけるとともに、社会的な見方・考え方について複数の視点から考察することで、理解を深めることができるよう授業を進めている。

習得した社会的知識について、複数の立場や利点と難点の双方について考察し、他の地方との比較などを通して新たな気づきを得るとともに、さらなる疑問・課題設定へとつなげようとする態度の育成を図りたいと考えている。

① 「多角的な思考」に関わる実践

・社会的基礎知識をもとに考察する

歴史的分野の「近世 社会の変化と幕府の対策」の単元において、江戸時代に幕府が行った政治改革について、その是非を問う学習活動を取り入れた。

まず前時までの授業で、江戸時代に飢饉や自然災害に伴う幕府の財政の悪化に対して、徳川吉宗が行った享保の改革について学習した。さらに実施された様々な政治改革における効果の有無から、享保の改革の是非を考察する学習を行った。実施された複数の改革の中で、より効果的で重要だと思われるものを絞り、その政策について複数の立場からその効果の有無を考察することで幕府の行った政治改革の是非に迫ることとした。以下は生徒が記入した思考ツールと享保の改革の是非についてA~Cで評価したものである。

- ① 享保の改革で行われた取り組みの内、より効果的で重要だと思うものを4つに絞る。
- ② 4つの取り組みについて、A 武士、B 町人、C 百姓、D 幕府の4つの立場(身分)から、その効果や負担を考察する。
- ③ ②の考察を踏まえて、4つの取り組みから享保の改革の是非をA・B・C三段階で評価する。

図4 考察の手順

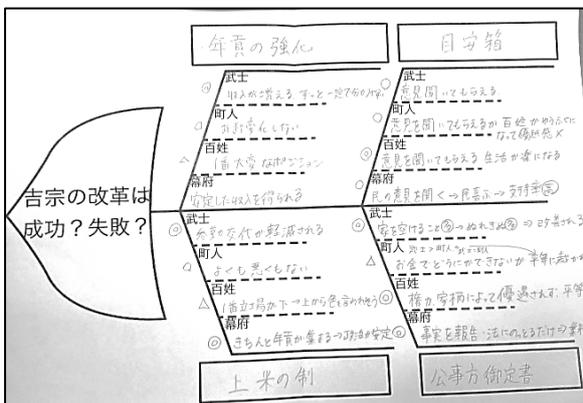


図5 生徒が記入したワークシート①

図6 生徒が記入したワークシート②

享保の改革について、その目的や実施内容の理解だけではなく、異なる立場（身分）の人々にとってその効果や負担はどうだったかと考察することで、改革を総合的に捉えることを狙いとした。生徒のワークシートからは、1つの取り組みが異なる身分の人々にとってどのような影響があったかを考察し、その取り組みの是非を考察する様子が見られた。さらに4つの取り組みについて考察することで、享保の改革の是非を総合的に捉えている意見が多数見られた。

しかし異なる身分の人々への影響については、生徒の主観で考察され、根拠が不明瞭であったために十分に思考を深められない生徒も見られた。さらに武士・町人・百姓に対して幕府が与える影響などを踏まえて捉えることができていなかったため、「幕府には良かったが、武士や百姓にはあまり効果がなかった」という意見も見られた。

②「多面的な考察」に関わる実践

・幕末時の開国に伴う混乱と尊皇攘夷運動

江戸幕府の行った政治改革の是非を問う活動では、多角的な視点を取り入れた考察を行い、異なる複数の立場（身分）から捉えることができたが、その根拠となる情報の収集や多面的な考察に課題が残った。そこで次の単元である「開国と幕府の終わり」では、開国にいたるまでの流れや幕府の混乱から滅亡まで学習を通して、江戸幕府滅亡の理由について、多面的な視点から考察させたい。

第3学年

昨年度の課題として、生徒が地域の課題を自ら発見し、それについて深く考える力が不足していたことや、地域社会への関心が低く、課題解決において表面的な解決策に終始することが多かった点が挙げられる。

今年度は、社会科の見方や考え方を働かせながら多面的・多角的に思考する力を育成し、物事をさまざまな視点から捉え、社会における課題に対して、よりよい社会の実現を見据えた解決策を導き出せるようにすることを目指す。

③「多角的かつ多面的な考察」に関わる実践

・テーマごとに深く調べ、スライドにまとめる活動

公民的分野の「現代社会と私たち」中の小単元「私たちと文化」では、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとし、「私たちの生活において、なぜ文化が大切にされるのか。」という問いに対して多面的・多角的に考察するため、グループごとに調べ学習を行い、スライドにまとめる活動を行う。

表9 調べ学習のグループごとのテーマ

| 多面的視点 | 多角的視点 |
|---------------------------|------------------|
| 1 科学（最新の科学技術等も含む） | 6 地域によって異なる多様な文化 |
| 2 宗教（絵画・音楽など宗教による文化など含） | 7 世界に広がる日本の文化 |
| 3 芸術の役割と課題（音楽、絵画、映画、小説など） | 8 日本の中の国際的な文化 |
| 4 専門家が受け継いできた伝統文化 | 9 多文化共生の実現 |
| 5 生活文化・年中行事 | |

授業の構成は以下の（図7）の通りである。各グループの発表を聞いて、個々に図8のワークシートを用いて情報を整理し、ワークシートをもとに、「私たちの生活において、なぜ文化が大切にされるのか。」という問いについて考察し、タブレット端末を用いて共有を行う。

| | |
|----|---|
| 1時 | 文化の役割を知る，テーマ決め |
| 2時 | 個人で調べる，スライド作成 |
| 3時 | 発表，問い「私たちの生活において，なぜ文化が大切にされるのか。」に対する答えの考察 |

| STEP 2 様々な見方から「文化」を考えよう | |
|--------------------------|---------------|
| 1 科学の役割と課題 | 身があったこと・考えたこと |
| 2 宗教の役割と課題 | 〃 |
| 3 芸術の役割と課題 | 〃 |
| 4 伝統文化① (専門家が受け継ぐ文化) | 〃 |
| 5 伝統文化② (生活文化・年中行事) | 〃 |
| 6 伝統文化③ (地域によって異なる文化) | 〃 |
| 7 世界に広がる日本の文化 | 〃 |
| 8 日本の中の国際的な文化 | 〃 |
| 9 多文化共生の実現 | 〃 |

図7 小単元「私たちと文化」の単元構成（3時間）

図8 ワークシート

| 5 伝統文化② (生活文化・年中行事) | |
|---------------------|--|
| 春 (3~5) | ・桃の節句(3/3) ・端午の節句(5/5) ・女の子の無事な成長を祝う ・男の子の男の子の誕生を祝うとともに、その健やかな成長を祈る |
| 夏 (6~8) | ・七夕(7/7) ・お盆(8/13~8/16) ・豊作を願ったり人々の健康を払ったりする ・故人やご先祖様の霊を祭に迎えて、供養する |
| 秋 (9~11) | ・十五夜 (9/17) ・七五三(11/17) ・収穫などに感謝をする ・子供の長寿と幸福を祈る |
| 冬 (12~2) | ・大晦日(12/31) ・元旦 (1/1) ・節分(2/2) ・年明けとともに「年神様（歳神様）」をお迎えし、記するための準備を行う ・正月の湯見の取に、神様をお迎えして、旧年の無事と豊作を感謝し、今年も同様であることを祈る ・季節の変わり目に取りこもりがちな病気や災害を共に乗り越え、それを重くし |

ダイバーシティ (多様性) とは？

ダイバーシティ (Diversity) とは、日本語で「多様性」の意味で、人種・性別・宗教・価値観などさまざまな異なる属性を持った人々が、組織や集団において共存している状態を示します。

ビジネスにおけるダイバーシティの例

- ・女性や障がい者が活躍できるような職場
- ・言語に左右されない業務環境の整備 (外国人労働者の受け入れ)
- ・ライフスタイルに合わせて働けるテレワークの導入

図9 生徒作成スライド①

図10 生徒作成スライド②

・多面的・多角的な視点を入れて企画書を作成する活動

公民的分野の「現代社会と私たち」中の小単元「生産と労働」では、企業の生産活動や金融にかかわる様々な事象から課題を見出し、対立と合意，効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現することをねらいとし，「私たちの社会や生活を豊かにするために，企業にはどのような役割があるのか。」という問いに対して多面的・多角的に考察するため，単元の終末で，個人で起業をすることを想定した企業の企画書を書く活動を行う。

表10 企業の企画書に入れる項目

| 多面的視点 (企業の運営に関わる複数の要素) | 多角的視点 (市場や社会全体からみた企業の役割) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的 ・ 事業内容 ・ 事業形態 ・ 従業員の求人 (給与・雇用形態・労働条件) | <ul style="list-style-type: none"> ・ CSR (企業の社会的責任) ・ 価格設定 (市場経済) ・ 資金調達 (金融) ・ 事業改善 (景気変動) ・ 海外との競争 (経済のグローバル化) |

小単元を通して，企業の役割に関する要素を多面的・多角的視点から考え，単元の終わりに企画書にまとめる。企業が商品やサービスを提供することにより，消費者が必要なものを手に入れることができること，また労働者に働く場所を提供していること，さらに，環境への配慮や従業員の働き方の改善といった持続可能な社会に向けた責任についてもふまえて，多面的・多角的な考えをもてるように学習を進めていきたい。

3. 参考文献

- 1) 内閣府：第5期科学技術基本計画，pp.10-11(2016)
- 2) 内閣府：第6次科学技術基本計画，pp11-13(2021)
- 3) 内閣府：第6次科学技術基本計画，pp14(2021)
- 4) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編，東山書房
- 5) 文部科学省『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現』，株式会社アイフィス(2022)
- 6) 山根栄次：社会科と『総合的な学習の時間』との連携の可能性『三重大学教育実践総合センター紀要 21号』pp.9-16(2001)
- 7) 富田俊幸：カリキュラム・マネジメントによる社会科と総合的な学習の時間における合科的な郷土学習—持続可能な社会の創り手としての資質・能力の視点での一考察—『学校教育研究 No.35』(2020)
- 8) 國原幸一郎：中学校の『総合的な学習の時間』における探究学習—社会科と比較して—『名古屋学院大学教職センター年報 第2号』pp.35-54(2018)
- 9) 藤井千春：「総合的な学習の時間」と社会科，日本社会科教育学会編『新版社会科教育辞典』ぎょうせい，pp.330-331

4. 単元計画

3年 単元名「生産と労働」 単元計画（13時間）

| 次 | 時 | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 | 評価の観点 (評価方法) | | |
|---|---|--|-----------------|---|---|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| 一 | 1 | <p>「生産活動と企業」</p> <p>◆企業の活動の目的を知り，私たちの生活に必要なモノやサービスを生産している企業の活動に関心を持つことができる。</p> <p>○企業はどのような目的で活動しているのか。</p> <p>・企業が私たちの生活にどのように関わっているのか，身近な事例から考える。</p> <p>【企画書①】</p> <p>・起業する事業の内容と目的を考える。</p> | | | ● |
| | 1 | <p>「企業の種類」</p> <p>◆自分が起業するとしたら，どのような企業を創るか，企業の社会的責任に着目して，具体的な事例を基に考察し，表現する。</p> <p>○企業にはどのような種類があるのか。</p> <p>・私企業と公企業，大企業と中小企業の違いについて調べる。</p> <p>【企画書②】</p> <p>・起業する企業の事業形態を考える。</p> <p>・企業が関わることができる社会的責任について考える。</p> | | ○ | |
| | 1 | <p>「株式会社の仕組み」</p> <p>◆株式会社の仕組みについて理解する。</p> <p>○株式会社はどのような仕組みになっているのか。</p> <p>・株式投資シミュレーションを行う。</p> | ○ | | |
| | 1 | <p>「労働の意義と労働者の権利」</p> <p>◆労働者の権利を守るための取り組みについて理解する。</p> <p>○労働者の権利を守るために，どのような取り組みがなされているか。</p> <p>・労働基準法，労働組合法，労働関係調整法，働き方改革法について調べる。</p> <p>【企画書③】</p> <p>・従業員の雇用条件について考える。</p> | ○ | | |
| | 1 | <p>「労働環境の変化と課題」</p> <p>◆労働環境の変化と課題について考察し，表現する。</p> <p>○労働をめぐる環境にはどのような変化と課題が見られるのか。</p> <p>・「非正規労働者」と「外国人労働者」をテーマに背景と課題について話し合う。</p> <p>【企画書④】</p> <p>・従業員の雇用形態について考える。</p> | | ○ | |
| 二 | 1 | <p>「市場経済と価格の決まり方」</p> <p>◆市場経済における価格の決定について理解する。</p> <p>○市場経済において，価格はどのように決定されるのか。</p> <p>・需要と供給，価格との関係についての説明を聞き，理解する。</p> | ● | | |
| | 1 | <p>「価格の働き」</p> <p>◆市場経済において価格が果たしている役割を，効率に着目して考察し，表現する。</p> <p>○市場経済において，価格はどのような働きをするのか。</p> <p>・需要の変化と共有の変化を別々に作図する。</p> <p>【企画書⑤】</p> <p>・製品やサービスの価格を設定する。</p> | | ○ | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 1 | <p>「貨幣の役割と金融」</p> <p>◆身近な事例を基に、貨幣の役割や金融の働きについて理解する。</p> <p>○貨幣や金融は私たちの社会でどのような役割を果たしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣の3つの役割と歴史について調べ、共有する。 | ○ | | |
| | 1 | <p>「私たちの生活と金融機関」</p> <p>◆私たちの生活と銀行の関係について、銀行の役割に着目して、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>○銀行は私たちの生活でどのような役割を果たしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現金・通帳の残高・定期預金・株券・純金・クレジットカード・電子マネーについて調べ、仕組みの違いを説明する。 <p>【企画書⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業資金の調達方法について考える。 | | ○ | |
| | 1 | <p>「景気と金融政策」</p> <p>◆景気について、どのような取り組みがなされているか理解する。</p> <p>○景気の変動に対してどのような取り組みがされているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気変動のグラフから、好景気の局面と不景気の局面について読み取る。 <p>【企画書⑦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気変動した場合の事業改善方法について考える。 | ○ | | |
| | 1 | <p>「グローバル経済と金融」</p> <p>◆経済や金融のグローバル化が私たちの生活にどのような影響を与えているかを考察する。</p> <p>○経済や金融のグローバル化は私たちの生活にどのような影響を与えているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円の為替相場の推移から、日本企業が海外に進出する理由と、経済がグローバル化になることの利点と課題を発表する。 <p>【企画書⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化に対する方策を考える。 | | ○ | |
| 三 | 1 | <p>「企業の企画書を完成させよう」</p> <p>◆企業の生産活動や金融に関わる様々な事象を考慮して、企業の企画書としてまとめようとしている。</p> <p>○私たちの生活や社会を豊かにする企業を起業しよう。</p> <p>【企画書⑨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書①～⑧で考えた視点を踏まえて、生活や社会を豊かにする企業の企画書を作成する。 ・4人グループで自分の書いた企画書の内容をプレゼンする。 | | | ● |
| | 1 | <p>「附属中ビジネスコンテスト開催！」(単元のまとめ)</p> <p>◆企業の生産活動や金融に関わる様々な事象から課題を見出し、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、その勝手や結果を適切に表現する。</p> <p>○私たちの社会や生活を豊かにするために、企業にはどのような役割があるのか。</p> <p>【企画書⑩】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者の発表を聞き、投票する。 ・単元のまとめを書く | | | ● |

社会科 学習指導案

日 時：令和6年11月23(土)

指導者：寺島 慶子

場 所：2年2組教室

1 単元名・題材名 開国と幕府の終わり

2 単元・題材の目標

- (1) 欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。
- (2) 近代化を成立させた欧米諸国のアジア進出が，日本の政治や社会に及ぼす影響について，複数の事象を関連付けて多角的・多面的に考察し，表現することができる。
- (3) 欧米諸国の接近とそれに伴う日本の社会の混乱や政治の変化について，そこで見られる課題を自分事として捉え，主体的に追求している。

3 単元・題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| 欧米諸国のアジア進出に対する清の動きと，日本の開国と貿易の拡大による政治的・経済的・社会的な影響を理解しているとともに，諸資料からその変化や影響を読み取っている。 | 工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して，欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察し，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 | 欧米諸国における「近代化」の進展と東アジア諸国の動きについて，より良い社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は，中学校学習指導要領社会の歴史的分野「C(1)近代の日本と世界」に位置づけられている。小学校学習指導要領では第6学年の2(2)(ケ)において，黒船の来航として取り扱われている。中学校では，ヨーロッパ諸国でおきた市民革命や産業革命の結果，近代国家を成立した欧米諸国がアジアへ進出したことと，それによって日本を開国，倒幕へと動いていく時代の転換期を扱う単元である。この時代に日本が行っていた従来の制度や仕組み，鎖国の体制などが，欧米諸国の接近により，「開国か」「攘夷か」という重大な政治的決断を迫られることとなり，幕府や諸藩といった日本だけではなく，欧米諸国などそれぞれの立場から「世界の中の日本」という視野に立ち，多面的・多角的に考察する態度や能力を育むのに大変適した題材である。

また「ペリー」や「黒船」などは，小学校の学習でも取り扱っているため，小学校での学習についてさらに理解を深める点においても効果的な単元である。

(2) 生徒観

本単元は小学校第6学年において，ペリーの来航や不平等条約の締結について学習をしてきている。しかし，歴史の大まかな流れやそれぞれの時代の特徴を押さえることが主となるため，その背景や経緯，結果などがわからず，用語の理解に留まっている生徒も多い。

課題に対して理解できるまで粘り強く課題に取り組んだり，男女を問わず活発に意見交流ができるなど，学習に対する意欲が全体的に高い。授業に関するアンケートを行った。

| 項 目 | 肯定的な回答 |
|------------------------------------|--------|
| 1. 課題について自分から考えようとしている。 | 97.0% |
| 2. 学びあい(ペア活動やグループ活動)で学習の理解が深まっている。 | 93.9% |
| 3. 積極的に自分の考えや意見を発言/発表できる。 | 48.5% |

歴史の授業に関するアンケート結果

| 項 目 | 肯定的な回答 |
|-----------------------------------|--------|
| 1. 歴史の授業が好きですか。 | 63.6% |
| 2. 歴史の学習が得意ですか。 | 33.3% |
| 3. できごとや人物名など、歴史的用語を覚えることができる。 | 60.6% |
| 4. 資料からその変化や特徴を読み取ることができる。 | 75.8% |
| 5. 資料から読み取った内容を自分の言葉で説明できる。 | 42.4% |
| 6. 歴史的事象について、その背景や原因、結果について説明できる。 | 39.4% |

この結果から、「歴史は好きだが得意ではない」と感じている生徒が比較的多く、その原因の1つとして、覚える用語の多さに加え、歴史的事象の背景や原因、結果に至るまでの流れがつかめていない生徒が多いことがわかる。

一方で歴史に興味関心が高く、疑問に思ったことや関心があることについて自分で調べ探求する生徒もいる。そのような生徒がペア活動やグループ活動を通して意見交流をすることで、他の生徒も学びを深めている場面がこれまでも多く見られた。

(3) 指導観

指導にあたっては、江戸幕府滅亡の背景と流れを理解させることを重視したい。先述の通り、小学校の学習において特徴的な人物名やできごとは理解している。そこで、ペリー来航から日本の開国に至る経緯やその影響について、当時の世界の動きと関連付けて学習することでより理解が深まると考える。また、ペリーが来航し不平等条約を結んだことが幕府滅亡の原因と捉えている生徒も多く、開国や不平等条約締結による影響について複数の視点から考察することで、幕府滅亡の要因が1つではなく、様々な要素があったことに気づかせることで、歴史への関心をさらに高め、学習意欲の向上につなげたい。

5 指導と評価の計画

| 次 | 時 | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 | 評価の観点 (評価方法) | | |
|---|---|---|-----------------|---|---|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| 1 | 1 | ◆アヘン戦争が起きた背景を踏まえ、その結果が清や日本に与えた影響を説明できるようにする。 ○異国船打払令から薪水給与令へと変わった理由を考察する。 ・幕府の対外政策の変化について、アヘン戦争が及ぼす影響を踏まえて考察する。 | | ○ | |
| 2 | 1 | ◆大塩平八郎の乱や天保の改革の失敗を通じて、幕府政治の衰退を理解する ○天保の改革の失敗により幕府の衰退につながる反面、諸藩は商業重視の改革に取り組んでいたことを理解する。 | ○ | | |
| 3 | 1 | ◆開国が日本の政治や社会に与えた影響について理解できる。 ○黒船来航と不平等条約が結ばれた理由を理解する。 ・日米和親条約と日米修好通商条約の違いから、日本と欧米諸国の関係をつかむ。 | ○ | | |

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|
| 4 | 1 | ◆倒幕の動きから大政奉還がなされ、幕府が倒れるまでの流れを理解する。 ○攘夷から倒幕へと変わる諸藩の動きと、大政奉還によって江戸幕府が滅亡したことを理解する。 | ○ | | |
| | 2 | ◆江戸幕府が滅亡した理由について、多面的・多角的に考察できる。 ○開国から大政奉還による江戸幕府の滅亡に至るまでの要因について、考察する。 ・江戸幕府が滅びた原因を異なる視点から考察する。 | | ○ | |

6 本時の学習（第4次中2時）

(1) 目標 江戸幕府が滅亡した理由について、多面的・多角的に考察できる。

(2) 準備・資料等 ワークシート、iPad（ロイロノート、思考ツール）

(3) 展開

| ○学習内容 | ・学習活動 | ・指導上の留意点など 【評価規準】（評価方法） | 時間 |
|---|--|---|----|
| (前時までの学習) ○開国から江戸幕府滅亡までの流れを確認する。 | (個人で) ○江戸幕府が滅亡した理由を、3つの視点から考える。 ・幕府滅亡の理由として考えられるものを「(幕府の) 財政問題」, 「国内問題」, 「対外政策」の3つの視点ごとに分けてふせんに記入する。 | ・幕府滅亡の理由を「財政問題」→ 黄色, 「国内問題」→ 赤色, 「対外政策」→ 青色の色別に記入することで、どの視点かをわかりやすくする。 ・これまでの学習に関わる資料を掲示し、幕府滅亡の理由を考えるヒントとする。 | |
| (個人で) ○江戸幕府が滅亡した理由を、3つの視点から考える。 ・幕府滅亡の理由として考えられるものを「(幕府の) 財政問題」, 「国内問題」, 「対外政策」の3つの視点ごとに分けてふせんに記入する。 | | ・幕府滅亡の理由を「財政問題」→ 黄色, 「国内問題」→ 赤色, 「対外政策」→ 青色の色別に記入することで、どの視点かをわかりやすくする。 ・これまでの学習に関わる資料を掲示し、幕府滅亡の理由を考えるヒントとする。 | 5 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題 江戸幕府滅亡の理由はなんだったのだろうか？ </div> | | | |
| (グループで) ○幕府滅亡の理由について、関連付けたり、影響の大小に分類するなどして整理する。 ・ピラミッドチャートにふせんを貼って、幕府滅亡の理由を整理する。 | | ・ピラミッドチャートにふせんを貼る際に、以下の点に留意させる。 ① 3つの視点(色)別に整理する。 ② 同じふせんは枚数がわかるように重ねて貼る。 ③ 関連するものは近くにまとめる。 | 15 |
| (共有する) ○ピラミッドチャートを基に、理由の関連や影響について意見交流する。 | | ・各グループで作成したピラミッドチャートをロイロノートで共有し、その根拠を相互に伝え合うことで多様な理由や捉え方あることに気付かせる。 ・前後半に分けて、全員が他のグループと意見交流できるようにする。 | 18 |

| | | |
|--|---|--------------------|
| <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府滅亡について、「財政問題」「国内問題」「対外政策」の3つの視点から、その影響の割合をグラフで示す。 ロイロノートで提出したグラフを共有する | <ul style="list-style-type: none"> グラフに表すことで3つの視点のうち、幕府滅亡により影響を与えたものを捉えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3つの視点について、江戸幕府滅亡に影響を与えた割合をグラフで示し、自分の考えを表現することができる。 【思考・判断・表現】</p> </div> | <p>10</p> <p>2</p> |
|--|---|--------------------|

7 板書計画, ワークシートの記述例など

<何が江戸幕府を滅亡に向かわせたのだろう>

～3つの視点～

- ・「財政問題」→黄色
- ・「国内問題」→赤色
- ・「対外政策」→青色



スクリーン

ロイロノートで各グループの
ピラミッドチャートを写す

<まとめ>

江戸幕府滅亡の理由

| | | |
|------|------|------|
| 国内問題 | 財政問題 | 対外政策 |
| 説明 | | |